

四 半 期 報 告 書

(第106期第3四半期)

株 式 会 社

秋 田 銀 行

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態及び経営成績の分析】	4
第3 【設備の状況】	9
第4 【提出会社の状況】	10
1 【株式等の状況】	10
2 【株価の推移】	12
3 【役員の状況】	12
第5 【経理の状況】	13
1 【四半期連結財務諸表】	14
2 【その他】	26
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	29

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年2月13日

【四半期会計期間】 第106期第3四半期(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

【会社名】 株式会社 秋田銀行

【英訳名】 THE AKITA BANK, LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 藤原清悦

【本店の所在の場所】 秋田市山王三丁目2番1号

【電話番号】 018(863)1212(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経営企画部長兼広報室長 新谷明弘

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋三丁目13番1号
株式会社秋田銀行 東京事務所

【電話番号】 03(3564)3117

【事務連絡者氏名】 執行役員東京支店長兼東京事務所長 西村典剛

【縦覧に供する場所】 株式会社秋田銀行 東京支店
(東京都中央区京橋三丁目13番1号)
株式会社 東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成20年度 第3四半期連結 累計期間	平成20年度 第3四半期連結 会計期間	平成19年度
		(自平成20年 4月1日 至平成20年 12月31日)	(自平成20年 10月1日 至平成20年 12月31日)	(自平成19年 4月1日 至平成20年 3月31日)
経常収益	百万円	44,324	15,075	58,391
経常利益 (△は経常損失)	百万円	△1,870	1,568	8,248
四半期純利益 (△は四半期純損失)	百万円	△2,009	650	—
当期純利益	百万円	—	—	3,514
純資産額	百万円	—	119,554	132,339
総資産額	百万円	—	2,321,338	2,222,037
1株当たり純資産額	円	—	598.26	664.15
1株当たり四半期純利益 金額 (△は1株当たり四半期 純損失金額)	円	△10.39	3.36	—
1株当たり当期純利益 金額	円	—	—	18.11
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益 金額	円	—	—	—
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額	円	—	—	—
自己資本比率	%	—	4.9	5.7
営業活動による キャッシュ・フロー	百万円	84,301	—	35,477
投資活動による キャッシュ・フロー	百万円	△78,544	—	△26,927
財務活動による キャッシュ・フロー	百万円	△1,206	—	△2,337
現金及び現金同等物 の四半期末(期末)残高	百万円	—	47,764	43,219
従業員数	人	—	1,656	1,604

- (注) 1. 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、潜在株式がないので記載しておりません。
3. 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第5 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。

4. 当行は、特定事業会社(企業内容等の開示に関する内閣府令第17条の15第2項に規定する事業を行う会社)に該当するため、第3四半期連結会計期間に係る損益関係指標については、「第5 経理の状況」の「2 その他」中、「(1) 第3四半期連結会計期間に係る損益計算書、セグメント情報及び1株当たり四半期純損益金額等」の「① 損益計算書」にもとづいて掲出しております。

なお、第3四半期連結会計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、同「③ 1株当たり四半期純損益金額等」に記載しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当行グループ(当行および当行の関係会社)が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社における従業員数

平成20年12月31日現在

従業員数(人)	1,656 [530]
---------	----------------

- (注) 1. 従業員数は、嘱託および臨時従業員532人を含んでおりません。
2. 従業員数は、取締役を兼務していない執行役員5名を含んでおります。
3. 臨時従業員数は、[]内に当第3四半期連結会計期間の平均人員を外書きで記載しております。

(2) 当行の従業員数

平成20年12月31日現在

従業員数(人)	1,550 [104]
---------	----------------

- (注) 1. 従業員数は、嘱託および臨時従業員106人を含んでおりません。
2. 従業員数は、取締役を兼務していない執行役員5名を含んでおります。
3. 臨時従業員数は、[]内に当第3四半期会計期間の平均人員を外書きで記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

「生産、受注及び販売の状況」は、銀行業における業務の特殊性のため、該当する情報がないので記載していません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当行グループ(当行および連結会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期の国内経済は、世界的な金融市場の混乱が实体经济に波及し、設備投資や生産、輸出の落ち込みに加え、最近は雇用情勢も深刻化し、景気底割れの懸念が強まっております。

県内経済は、国内外の景気悪化の進行による需要減少により主力の電子部品や機械金属の生産が減少したほか、公共投資や住宅投資も低調に推移し、雇用情勢も悪化するなど、一段と厳しさを増しております。

以上のような経営環境のもと、当行は、20年度よりスタートした新中期経営計画「あきぎん Evolution < 1st stage >」で定めた重点方針に基づき、各種施策に取り組んだ結果、当行グループの第3四半期の業績は以下のとおりとなりました。

預 金

個人預金の増加を主因として、2兆1,125億円(譲渡性預金を含む。)となりました。

なお、預り資産につきましては、お客様の多様な資産運用ニーズに積極的にお応えした結果、1,808億円となりました。

貸 出 金

事業先向け貸出が増加したことを主因に、1兆3,673億円となりました。

有価証券

適切なリスク管理のもと、効率的な運用を実施した結果、8,001億円となりました。

損 益

経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の増収を主因として、150億7千5百万円となりました。また、経常費用は、株式市場の低迷を受けて有価証券の減損処理を実施したほか、与信関係費用の増加を主因として、135億7百万円となりました。

この結果、経常利益は15億6千8百万円、四半期純利益は6億5千万円となりました。

当第3四半期連結会計期間の事業の種類別セグメントの業績は、銀行業務は、経常収益は134億7千5百万円、経常利益は13億9千5百万円となりました。

リース業務は、経常収益は14億4千万円、経常利益は1億2千2百万円となりました。

クレジットカード業務等のその他の業務は、経常収益は7億3千6百万円、経常利益は5千万円となりました。

国内・国際業務部門別収支

資金運用収支につきましては、国内業務部門で8,412百万円、国際業務部門で89百万円となり、合計で8,501百万円となりました。

役務取引等収支につきましては、国内業務部門で1,021百万円、国際業務部門で4百万円となり、合計で1,026百万円となりました。

その他業務収支につきましては、国内業務部門で△1,358百万円、国際業務部門で15百万円となり、合計で△1,342百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	8,412	89	8,501
うち資金運用収益	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	9,986	190	10,139 ³⁷
うち資金調達費用	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	1,574	100	1,637 ³⁷
役務取引等収支	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	1,021	4	1,026
うち役務取引等収益	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	1,555	9	1,564
うち役務取引等費用	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	534	4	538
その他業務収支	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	△1,358	15	△1,342
うちその他業務収益	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	2,099	15	2,114
うちその他業務費用	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	3,457	—	3,457

- (注) 1. 国内業務部門とは当行および連結子会社の円建取引であり、国際業務部門とは当行および連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
2. 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用4百万円を控除して表示しております。
3. 資金運用収益および資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

国内業務部門

収益が1,555百万円、費用が534百万円となり、役務取引等収支は1,021百万円となりました。

国際業務部門

収益が9百万円、費用が4百万円となり、役務取引等収支は4百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	1,555	9	1,564
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	464	—	464
うち為替業務	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	541	8	550
うち証券関連業務	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	10	—	10
うち代理業務	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	62	—	62
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	0	—	0
うち保証業務	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	139	0	140
うちクレジット・カード業務	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	181	—	181
役務取引等費用	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	534	4	538
うち為替業務	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	93	4	97

(注) 国内業務部門とは当行および連結子会社の円建取引であり、国際業務部門とは当行および連結子会社の外貨建取引であります。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	2,037,678	3,574	2,041,252
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	923,408	—	923,408
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	1,099,681	—	1,099,681
うちその他	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	14,588	3,574	18,163
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	71,258	—	71,258
総合計	前第3四半期連結会計期間	—	—	—
	当第3四半期連結会計期間	2,108,937	3,574	2,112,511

(注) 1. 国内業務部門とは当行および連結子会社の円建取引であり、国際業務部門とは当行および連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

3. 定期性預金＝定期預金＋定期積金

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況(残高・構成比)

業種別	平成20年12月31日	
	貸出金残高(百万円)	構成比(%)
国内業務部門 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,367,378	100.00
製造業	148,668	10.87
農業	2,840	0.21
林業	1,856	0.13
漁業	32	0.00
鉱業	15,549	1.14
建設業	83,665	6.12
電気・ガス・熱供給・水道業	13,235	0.97
情報通信業	19,514	1.43
運輸業	32,486	2.38
卸売・小売業	160,496	11.74
金融・保険業	59,599	4.36
不動産業	62,064	4.54
各種サービス業	173,931	12.72
地方公共団体	252,204	18.44
その他	341,232	24.95
国際業務部門 及び特別国際金融取引勘定分	—	—
政府等	—	—
金融機関	—	—
その他	—	—
合計	1,367,378	—

(注) 国内業務部門とは当行および連結子会社の円建取引であり、国際業務部門とは当行および連結子会社の外貨建取引であります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、預金等の資金調達勘定の増加額が、貸出金等の資金運用勘定の増加額を上回ったことを主因に、121億8千9百万円のプラスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得による支出が、有価証券の売却および償還による収入を上回ったことを主因に、111億1千6百万円のマイナスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払による支出を主因に、5億9千6百万円のマイナスとなりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、営業活動における収入超過額が投資活動および財務活動の支出超過額を上回ったことから、中間連結会計期間末比4億9千8百万円増加し、477億6千4百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間中に完成した新築は次のとおりであります。

銀行業務部門

	会社名	店舗名 その他	所在地	設備の内容	敷地面積 (㎡)	建物延面積 (㎡)	完了年月
当行	—	郡山南	福島県郡山市	店舗	1,568	475	平成20年11月

2 設備の新設、除却等の計画

第2四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、除却等のうち、当第3四半期連結会計期間中に重要な変更のあったものは該当ありません。

また、当第3四半期連結会計期間中に新たに確定した重要な設備の新築、除却等の計画は該当ありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	687,455,000
計	687,455,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成20年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	193,936,439	同 左	東京証券取引所 市場第一部	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。 単元株式数は1,000株。
計	193,936,439	同 左	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年12月31日	—	193,936	—	14,100,848	—	6,268,614

(5) 【大株主の状況】

次の法人から、平成20年8月8日付で大量保有報告書に係る変更報告書の提出があり、平成20年7月31日現在で次のとおり株式を所有している旨報告を受けておりますが、当第3四半期会計期間末現在における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができませんので、大株主の異動は把握しておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ブランドス・インベストメン ト・パートナーズ・エル・ピー	アメリカ合衆国、カリフォルニア州92191、 サンディエゴ、エル・カミノ・レアール 11988、500号室	9,949	5.13

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成20年9月30日現在で記載しております。

① 【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 623,000	—	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式191,111,000	191,111	同上
単元未満株式	普通株式 2,202,439	—	同上
発行済株式総数	193,936,439	—	—
総株主の議決権	—	191,111	—

(注) 1. 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1千株含まれております。

また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が1個含まれております。

2. 「単元未満株式」の欄には、当行所有の自己株式766株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 秋田銀行	秋田市山王三丁目2番1号	623,000	—	623,000	0.32
計	—	623,000	—	623,000	0.32

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	488	533	512	485	450	422	414	444	397
最低(円)	421	450	451	416	415	362	284	369	365

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の様動はありません。

第5 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2 当行は、特定事業会社(企業内容等の開示に関する内閣府令第17条の15第2項に規定する事業を行う会社)に該当するため、当第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)に係る損益の状況、セグメント情報および1株当たり四半期純損益金額等については、「2 その他」に記載しております。
- 3 当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)は、四半期連結財務諸表の作成初年度であるため、前第3四半期連結累計期間との対比は行っておりません。
- 4 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)の四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
現金預け金	48,899	44,231
コールローン及び買入手形	35,567	63,041
買入金銭債権	18,520	22,313
商品有価証券	2	24
金銭の信託	5,072	3,793
有価証券	※2, ※4 800,119	※2, ※4 742,866
貸出金	※1 1,367,378	※1 1,306,522
外国為替	1,276	222
その他資産	※2 29,731	※2 18,918
有形固定資産	※2, ※3 25,024	※2, ※3 30,979
無形固定資産	※2 664	※2 1,805
繰延税金資産	10,876	3,775
支払承諾見返	※4 11,481	※4 10,932
貸倒引当金	△33,278	△27,389
投資損失引当金	△0	—
資産の部合計	2,321,338	2,222,037
負債の部		
預金	2,041,252	1,997,162
譲渡性預金	71,258	40,920
コールマネー及び売渡手形	5,000	—
債券貸借取引受入担保金	37,446	7,498
借入金	9,435	7,505
外国為替	82	112
その他負債	16,099	16,228
役員賞与引当金	—	18
退職給付引当金	5,913	5,737
役員退職慰労引当金	255	250
睡眠預金払戻引当金	338	243
偶発損失引当金	416	188
再評価に係る繰延税金負債	2,802	2,897
支払承諾	※4 11,481	※4 10,932
負債の部合計	2,201,783	2,089,697
純資産の部		
資本金	14,100	14,100
資本剰余金	6,271	6,271
利益剰余金	89,107	92,299
自己株式	△352	△336
株主資本合計	109,128	112,335
その他有価証券評価差額金	4,305	13,584
繰延ヘッジ損益	△888	△587
土地再評価差額金	3,098	3,087
評価・換算差額等合計	6,514	16,084
少数株主持分	3,911	3,919
純資産の部合計	119,554	132,339
負債及び純資産の部合計	2,321,338	2,222,037

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
経常収益	44,324
資金運用収益	30,473
(うち貸出金利息)	20,554
(うち有価証券利息配当金)	8,651
役務取引等収益	5,046
その他業務収益	5,395
その他経常収益	3,409
経常費用	46,195
資金調達費用	5,502
(うち預金利息)	4,182
役務取引等費用	1,574
その他業務費用	9,718
営業経費	20,817
その他経常費用	※1 8,581
経常損失(△)	△1,870
特別利益	47
固定資産処分益	1
償却債権取立益	44
その他の特別利益	1
特別損失	456
固定資産処分損	255
減損損失	201
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,279
法人税、住民税及び事業税	353
法人税等調整額	△623
法人税等合計	△269
少数株主損失(△)	△0
四半期純損失(△)	△2,009

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△2,279
減価償却費	1,458
減損損失	201
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	5,888
投資損失引当金の増減額 (△は減少)	0
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△18
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	175
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	4
睡眠預金払戻引当金の増減額 (△は減少)	95
偶発損失引当金の増減額 (△は減少)	227
資金運用収益	△30,473
資金調達費用	5,502
有価証券関係損益 (△)	2,080
金銭の信託の運用損益 (△は運用益)	110
為替差損益 (△は益)	△56
固定資産処分損益 (△は益)	253
貸出金の純増 (△) 減	△62,074
預金の純増減 (△)	44,089
譲渡性預金の純増減 (△)	30,337
借入金 (劣後特約付借入金を除く) の純増減 (△)	1,930
預け金 (日銀預け金を除く) の純増 (△) 減	△122
コールローン等の純増 (△) 減	31,241
コールマネー等の純増減 (△)	5,000
債券貸借取引受入担保金の純増減 (△)	29,948
外国為替 (資産) の純増 (△) 減	△1,053
外国為替 (負債) の純増減 (△)	32
資金運用による収入	28,101
資金調達による支出	△4,505
商品有価証券の純増 (△) 減	24
その他	△92
小計	86,027
法人税等の支払額	△1,725
営業活動によるキャッシュ・フロー	84,301
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△743,111
有価証券の売却による収入	77,835
有価証券の償還による収入	590,214
金銭の信託の増加による支出	△1,163
有形固定資産の取得による支出	△3,050
有形固定資産の売却による収入	762
無形固定資産の取得による支出	△32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△78,544

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年12月31日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	△1,160
少数株主への配当金の支払額	△8
自己株式の取得による支出	△55
自己株式の売却による収入	17
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,206
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,545
現金及び現金同等物の期首残高	43,219
現金及び現金同等物の四半期末残高	47,764

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号同前)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったこととともない、中間連結会計期間から同会計基準および適用指針を適用しております。また、当該取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>(借手側)</p> <p>これにより、従来の方法に比べ、「有形固定資産」中のリース資産は790百万円、「無形固定資産」中のリース資産は47百万円、「その他負債」中のリース債務は543百万円増加しております。なお、損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(貸手側)</p> <p>これにより、従来の方法によった場合に比べ、「有形固定資産」および「無形固定資産」が減少し、「その他資産」中のリース債権およびリース投資資産が8,227百万円増加しております。</p> <p>なお、これによる経常損失および税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。</p> <p>なお、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する連結会計年度に属する所有権移転外ファイナンス・リース取引につきましては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。</p>

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
1 減価償却費の算定方法	定率法を採用している有形固定資産につきましては、年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。
2 貸倒引当金の計上方法	「破綻先」、「実質破綻先」に係る債権等及び「破綻懸念先」で個別の予想損失額を引き当てている債権等以外の債権に対する貸倒引当金の予想損失率につきましては、中間連結会計期間末より著しい変動がないと認められるため、中間連結会計期間末の予想損失率を適用して計上しております。
3 税金費用の計算	法人税等につきましては、年度決算と同様の方法により計算しておりますが、納付税額の算出に係る加減算項目及び税額控除項目は、重要性の高い項目に限定して適用しております。
4 繰延税金資産の回収可能性の判断	繰延税金資産の回収可能性の判断につきましては、一時差異の発生状況について中間連結会計期間末から大幅な変動がないと認められるため、当該中間連結会計期間末の検討において使用した将来の業績予測及びタックス・プランニングの結果を適用しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
<p>(その他有価証券に係る時価の算定方法の一部変更)</p> <p>金融資産のうち、売手と買手の希望する価格差が著しく大きい変動利付国債については、市場価格を時価とみなせないと判断し、当第3四半期連結会計期間においては、経営者の合理的な見積りに基づく合理的に算定された価額を時価としております。ただし、自行における合理的な見積りが困難であるため、ブローカーから入手した価格を合理的に算定された価額として使用しております。</p> <p>これにより、市場価格を時価として算定した場合に比べ、「有価証券」中の国債は5,579百万円、その他有価証券評価差額金は3,325百万円それぞれ増加し、繰延税金資産は2,254百万円減少しております。なお、これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>変動利付国債の合理的に算定された価額は、固定利付国債の価格に整合的な割引率と市場で評価されるスワプション・ボラティリティにフィットする金利の分散をもとに将来の金利推移をモデル化したうえで、将来キャッシュ・フローを想定し、算出した現在価値であり、国債の利回りおよびスワプション・ボラティリティが主な価格決定変数であります。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)																							
<p>※1. 貸出金のうち、リスク管理債権は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">破綻先債権額</td> <td style="text-align: right;">9,088百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">延滞債権額</td> <td style="text-align: right;">55,020百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">3ヵ月以上延滞債権額</td> <td style="text-align: right;">一百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">貸出条件緩和債権額</td> <td style="text-align: right;">5,417百万円</td> </tr> </table> <p>なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>※2. 担保に供している資産 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">有価証券</td> <td style="text-align: right;">67,783百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">未経過リース期間にかかわるリース債権</td> <td style="text-align: right;">2,045百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他資産</td> <td style="text-align: right;">52百万円</td> </tr> </table> <p>※3. 有形固定資産の減価償却累計額 31,914百万円</p> <p>※4. 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は2,670百万円であります。</p>	破綻先債権額	9,088百万円	延滞債権額	55,020百万円	3ヵ月以上延滞債権額	一百万円	貸出条件緩和債権額	5,417百万円	有価証券	67,783百万円	未経過リース期間にかかわるリース債権	2,045百万円	その他資産	52百万円	<p>※1. 貸出金のうち、リスク管理債権は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">破綻先債権額</td> <td style="text-align: right;">5,689百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">延滞債権額</td> <td style="text-align: right;">52,822百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">3ヵ月以上延滞債権額</td> <td style="text-align: right;">一百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">貸出条件緩和債権額</td> <td style="text-align: right;">7,389百万円</td> </tr> </table> <p>なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>※2. 担保に供している資産 有価証券</p>	破綻先債権額	5,689百万円	延滞債権額	52,822百万円	3ヵ月以上延滞債権額	一百万円	貸出条件緩和債権額	7,389百万円	12,152百万円
破綻先債権額	9,088百万円																							
延滞債権額	55,020百万円																							
3ヵ月以上延滞債権額	一百万円																							
貸出条件緩和債権額	5,417百万円																							
有価証券	67,783百万円																							
未経過リース期間にかかわるリース債権	2,045百万円																							
その他資産	52百万円																							
破綻先債権額	5,689百万円																							
延滞債権額	52,822百万円																							
3ヵ月以上延滞債権額	一百万円																							
貸出条件緩和債権額	7,389百万円																							
未経過リース期間にかかわるリース債権	1,839百万円																							
その他資産	51百万円																							

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
<p>※1. その他経常費用には、貸出金償却152百万円、貸倒引当金繰入額6,785百万円、株式等償却849百万円を含んでおります。</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)												
<p>現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (単位：百万円)</p> <p>平成20年12月31日現在</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金預け金勘定</td> <td style="text-align: right;">48,899</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">無利息預け金</td> <td style="text-align: right;">△430</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">普通預け金</td> <td style="text-align: right;">△290</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">定期預け金</td> <td style="text-align: right;">△50</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他の預け金</td> <td style="text-align: right;">△364</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">47,764</td> </tr> </table>	現金預け金勘定	48,899	無利息預け金	△430	普通預け金	△290	定期預け金	△50	その他の預け金	△364	現金及び現金同等物	47,764
現金預け金勘定	48,899											
無利息預け金	△430											
普通預け金	△290											
定期預け金	△50											
その他の預け金	△364											
現金及び現金同等物	47,764											

(株主資本等関係)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

当第3四半期連結会計期間末株式数	
発行済株式	
普通株式	193,936
合計	193,936
自己株式	
普通株式	638
合計	638

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの 金額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	580	3.00	平成20年3月31日	平成20年6月30日	利益剰余金
平成20年11月13日 取締役会	普通株式	579	3.00	平成20年9月30日	平成20年12月10日	利益剰余金

基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	銀行業務 (百万円)	リース業務 (百万円)	その他 の業務 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
経常収益	39,270	4,425	2,259	45,955	(1,631)	44,324
経常利益(△は経常損失)	△1,929	△69	128	△1,869	(0)	△1,870

(注) 1. 一般企業の売上高および営業利益に代えて、それぞれ経常収益および経常利益を記載しております。

2. 「その他の業務」はクレジットカード業務等であります。

【所在地別セグメント情報】

全セグメントの経常収益の合計額に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【国際業務経常収益】

国際業務経常収益が連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末

※ 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

なお、四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金、「買入金銭債権」中のコマーシャル・ペーパーおよびその他の買入金銭債権の一部を含めて記載しております。

1 満期保有目的の債券で時価のあるもの(平成20年12月31日現在)

前連結会計年度末から著しい変動はありません。

2 その他有価証券で時価のあるもの(平成20年12月31日現在)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	評価差額(百万円)
株式	38,810	48,183	9,373
債券	675,327	681,002	5,675
国債	184,197	187,820	3,622
地方債	194,923	197,149	2,226
短期社債	55,657	55,680	23
社債	240,548	240,351	△196
その他	79,768	71,569	△8,198
合計	793,905	800,755	6,849

(注) 1. 四半期連結貸借対照表計上額は、当第3四半期連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

2. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表価額とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額は、4,993百万円(うち株式795百万円、投資信託4,197百万円)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、個々の銘柄について、第3四半期連結会計期間末日における時価が取得原価に比べて30%以上下落している場合であります。減損処理は、当第3四半期連結会計期間末日における時価が取得原価に比べ50%以上下落した銘柄についてはすべて実施し、時価の下落が30%以上50%未満の銘柄については、基準日前一定期間の時価の推移や発行会社の財務内容などにより、個々に時価の回復可能性を判断し実施しております。

(追加情報)

金融資産のうち、売手と買手の希望する価格差が著しく大きい変動利付国債については、市場価格を時価とみなせないと判断し、当第3四半期連結会計期間においては、経営者の合理的な見積りに基づく合理的に算定された価額を時価としております。ただし、自行における合理的な見積りが困難であるため、ブローカーから入手した価格を合理的に算定された価額として使用しております。

これにより、市場価格を時価として算定した場合に比べ、「有価証券」中の国債は5,579百万円、その他有価証券評価差額金は3,325百万円それぞれ増加し、繰延税金資産は2,254百万円減少しております。なお、これによる損益に与える影響はありません。

変動利付国債の合理的に算定された価額は、固定利付国債の価格に整合的な割引率と市場で評価されるスワプション・ボラティリティにフィットする金利の分散をもとに将来の金利推移をモデル化したうえで、将来キャッシュ・フローを想定し、算出した現在価値であり、国債の利回りおよびスワプション・ボラティリティが主な価格決定変数であります。

(金銭の信託関係)

当第3四半期連結会計期間末

1 満期保有目的の金銭の信託(平成20年12月31日現在)

該当ありません。

2 その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)(平成20年12月31日現在)

該当ありません。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

(1) 金利関連取引(平成20年12月31日現在)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	金利先物	—	—	—
	金利オプション	—	—	—
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	27,000	△215	△215
	金利オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
	合計	—	△215	△215

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)等に基づき、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引(平成20年12月31日現在)

前連結会計年度末から著しい変動はありません。

(3) 株式関連取引(平成20年12月31日現在)

該当ありません。

(4) 債券関連取引(平成20年12月31日現在)

該当ありません。

(5) 商品関連取引(平成20年12月31日現在)

該当ありません。

(6) クレジットデリバティブ取引(平成20年12月31日現在)

該当ありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

		当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1株当たり純資産額	円	598.26	664.15

2 1株当たり四半期純利益金額等

		当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	円	△10.39
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	—

(注) 1. 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額		
四半期純損失	百万円	△2,009
普通株主に帰属しない 金額	百万円	—
普通株式に係る 四半期純損失	百万円	△2,009
普通株式の四半 期中平均株式数	千株	193,331

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当ありません。

2 【その他】

(1) 第3四半期連結会計期間に係る損益計算書、セグメント情報及び1株当たり四半期純損益金額等

当行は、特定事業会社(企業内容等の開示に関する内閣府令第17条の15第2項に規定する事業を行う会社)に該当するため、第3四半期連結会計期間に係る損益計算書、セグメント情報及び1株当たり四半期純損益金額等については、四半期レビューを受けておりません。

① 損益計算書

		(単位：百万円)
		当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
経常収益		15,075
資金運用収益		10,139
(うち貸出金利息)		6,974
(うち有価証券利息配当金)		2,936
役務取引等収益		1,564
その他業務収益		2,114
その他経常収益		1,257
経常費用		13,507
資金調達費用		1,642
(うち預金利息)		1,346
役務取引等費用		538
その他業務費用		3,457
営業経費		6,686
その他経常費用	※1	1,183
経常利益		1,568
特別利益		2
特別損失		53
税金等調整前四半期純利益		1,517
法人税等		799
少数株主利益		66
四半期純利益		650

当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
※1. 「その他経常費用」には、貸出金償却50百万円、貸倒引当金繰入額465百万円、株式等償却495百万円を含んでおります。

② セグメント情報

(事業の種類別セグメント情報)

当第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	銀行業務 (百万円)	リース業務 (百万円)	その他 の業務 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
経常収益	13,475	1,440	736	15,653	(577)	15,075
経常利益	1,395	122	50	1,568	(—)	1,568

- (注) 1. 一般企業の売上高および営業利益に代えて、それぞれ経常収益および経常利益を記載しております。
2. 「その他の業務」はクレジットカード業務等であります。

(所在地別セグメント情報)

全セグメントの経常収益の合計額に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

(国際業務経常収益)

国際業務経常収益が連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。

③ 1株当たり四半期純損益金額等

		当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
1株当たり四半期純利益 金額	円	3.36
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	—

- (注) 1. 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益	百万円	650
普通株主に帰属しない 金額	百万円	—
普通株式に係る 四半期純利益	百万円	650
普通株式の四半 期中平均株式数	千株	193,314

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。

(2) 中間配当

平成20年11月13日開催の取締役会において、第106期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当による配当金の金額	579百万円
---------------	--------

1株当たりの中間配当金	3円00銭
-------------	-------

支払請求の効力発生日および支払開始日 平成20年12月10日

(注) 平成20年9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主に対し支払います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月9日

株式会社 秋田銀行

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	秋	山	正	明	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	齋	藤	憲	芳	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	富	樫	健	一	Ⓔ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社秋田銀行の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社秋田銀行及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年2月13日
【会社名】	株式会社 秋田銀行
【英訳名】	THE AKITA BANK, LTD
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 藤原清悦
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	秋田市山王三丁目2番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社秋田銀行 東京支店 (東京都中央区京橋三丁目13番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当行代表取締役頭取 藤原清悦は、当行の第106期第3四半期(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。